

校番	031	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式2
----	-----	----------	-------	---	------	-------

令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長	宮原 敏典	生徒指導主事	篠原 祐木
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『団結心・連帯感を養う運動会の実施』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協働する力」	1	「適応力」	2	「高い志」	3

取組のねらい

全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード 協働の機会を生む』
----------	-----------------------------

・9月9日各クラスLHRにて（1h）
「運動会について」、「選手決め」
・体育の授業（実施前2～3週間、全年次5～9h程度）
「ラジオ体操（当日は点数化し、年次ごとの点になる）」等
・10月15日放課後「競技役員（生徒）。教職員打合せ」
・10月26日6限 「予行準備」
・10月27日 「予行」
・10月29日 「運動会実施」
目標 生徒の相互理解と親睦を深め、生徒の団結心・連帯感を養う。



・生徒会によって運動会を盛り上げるキャッチフレーズを作成、発表させた。（『獅子奮迅』～Reborn～）
・各種目を順位順に点数化し、総合計によって優勝を決定する年次対抗戦とした。
・昨年度の運動会運営におけるノウハウを生かし、コロナ禍においても感染症対策を徹底したうえで、生徒が一致団結して競うことのできる種目を検討した。
・年次ごとの文化的な取り組みとして壁画を作成した。発表の瞬間には拍手が起こるなど、互いを認め合う雰囲気醸成することができた。

取組の成果と課題

学校評価アンケートを7月と12月に実施した。「私は、学校行事（儀式・文化祭・運動会・遠足等）の時には積極的または協力的に取り組んでいる」の問いに対して、肯定的な回答が84.1%（7月）から92.5%（12月）に向上した。また、昨年度12月の結果が85.5%であったことから、「積極的・協力的」に取り組むことができたと感じている生徒の割合が向上していることがわかる。

一方で、学校行事全体の延期や中止はコロナの状況如何によっていつでも起こり得る。このことから、日常的なLHR等において、自己の在り方等を振り返らせるなど、自ら課題に向き合い、各クラスでしかできないような話し合いの場を設けるなど、特別活動の時間を充実させる必要がある。